

とちぎを
楽しもう

ぶらっと

Bratto

FREE
フリーペーパー
ご自由にお持ち
ください

★輝く女性たち★

現場から学んだ「段取り八分」仕事も家事も

 **七浦建設株式会社**
nanaura construction co.,ltd (那須支部)

みずむら ぶみ
水村 文美



資格は、愛犬家住宅コーディネーター等

子供の頃から絵を描いたり、小さな模型や小物を作ったり、母や姉が買ってきたインテリア雑誌を真似してしょっちゅう部屋の模様替えをしたりすることが大好きで、中学生になるまでには、将来はデザインに関する仕事に就きたい、とっていました。

生まれ育った千葉県普通の高校を卒業後、短大のデザイン科に進学し、室内デザイン・家具インテリアデザインなどを学びました。

その後は地元のリフォーム専門のリフォーム会社、住宅建材メーカーのショールームで働き、栃木県に移住後は、不動産会社に就職しました。しばらくして同会社の注文住宅部門へ配属され、注文住宅を建てられるお客様の夢を伺い、それを形にしていく現場との橋渡しとしての役目を担う仕事に従事しました。

本格的に「現場」に関わって仕事を始めたのもその頃からで、何もないところから、自分が初めて提案した住宅が出来上がっていき、その後お客様の新しい暮らしが始まる様子を見て、感動とやりがいを感じたと同時に、責任感に押し潰されそうな気持ちになったことを今でも覚えています。

現在お世話になっている七浦建設では、住宅リフォーム部門スタッフとして、リフォームを検討されているお客様の要望を伺い、プランニング、そして現場管理を行っています。

リフォームと、注文住宅の違いは、「今あるもの」を利用しなくてはならないところです。難しいと感じることもしばしばあります。しかし、私が昔から心がけていること、それは「段取り八分、仕事二分」という働き方です。お客様の貴重な時間をいただいているやりと

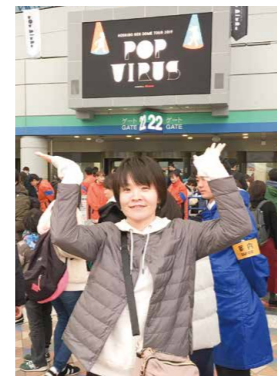
りを漏れなく現場に伝える、ただ伝えるだけではなく、毎日忙しい業者さんにも正しくわかりやすく伝える、そしてお客様にもわかりやすくお返す。毎日その繰り返しのような気がします。人に物事ををお願いする、伝えるには、やはり事前の段取りが必要で、それが出来て初めて仕事がスムーズに動くのだと思っています。それから仕事はもちろんです、家に帰ってからの主婦業の時間も、日々情報収集は欠かせません。建築関係のみに囚われず、日常生活に関わるいろいろな場面で常にアンテナを出し、アイデアや知識を積極的に吸収し、お客様との会話や商談に活かしています。

今は、ものづくりに興味のある女性はたくさん居ますが、それではいざ建設業へ！となると、まだまだどうしてもこの足を踏んでしまう方が多いと思います。しかし私は建設業こそ、女性ならではの繊細さが必要な業種だと思っています。これからは業界・社会全体が、もっともっと協力して、ひとりでも多くの女性が活躍でき、魅力ある業界になってくれることを心から望んでいます。

現場にて



現場にて



好きなアーティストのライブへ!



休日旅先にて(北海道小樽市)

vol.15
May 2019

◆発行／一般社団法人栃木県建設業協会 会長 渡邊勇雄 <http://www.tochiken.or.jp/>

◆発行人／広報委員長 岩原正樹

◆編集・デザイン／藤崎印刷(株)



建設工事のご相談は、お近くの建設業協会各支部にお気軽にお問い合わせください。

 一般社団法人 **栃木県建設業協会**

〒321-0933 栃木県宇都宮市築瀬町1958-1

TEL.028-639-2611(代) FAX.028-639-2985 URL <http://www.tochiken.or.jp/>

- 宇都宮支部／TEL.028-636-5221
- 鹿沼支部／TEL.0289-65-2020
- 日光支部／TEL.0288-54-0140
- 芳賀支部／TEL.0285-82-2051
- 下都賀支部／TEL.0282-24-5420

- 塩谷支部／TEL.0287-43-0142
- 那須支部／TEL.0287-22-2124
- 烏山支部／TEL.0287-82-3161
- 安蘇支部／TEL.0283-24-3838
- 足利支部／TEL.0284-71-0044



この情報紙は  一般社団法人 **栃木県建設業協会** がお届けしています

専門外出身者が 建設業の素晴らしさを語る

地域を支える未来の担い手にエール!



道路や橋、トンネルなど社会インフラの整備には、建設業者の力が不可欠です。しかし、超少子高齢社会、人口減少時代に入り、業界の若い担い手は減少傾向にあります。災害時においては、復興・復旧にも貢献するだけに安全・安心という観点からも、建設業者への要請は高まるばかりです。建設業は専門的で広範囲な知識、長年の経験に培われた高度な技術が求められ、敷居の高い分野ですが、高校、大学で専門の知識を学んでいなくても、就業しながら現場で技術を磨き、時間外で知識を習得し「地域社会をつくり、支える担い手になる」という自己実現に向けて日々汗する人は少なくありません。今回の座談会では建設系以外の学科の卒業生ながら、建設業界に就職した方々に集まっただけ、現場での技術の修得や、資格取得に向け努力した点、強い志を貫いた経験などについて語り合いました。(企画・制作 下野新聞社営業局)

●座談会出席者

(一社) 栃木県建設業協会

| | | |
|------|---------|---------|
| 鹿沼支部 | 井戸産業(株) | 藤田 昌英 氏 |
| 日光支部 | 榎本建設(株) | 榎本 菜月 氏 |
| 芳賀支部 | 松本建設(株) | 金子 真輔 氏 |
| 那須支部 | (株)大岩建設 | 櫻井 延明 氏 |
| 烏山支部 | (株)岡工務店 | 菊池 睦人 氏 |
| 足利支部 | 岩澤建設(株) | 寺内紀美恵 氏 |

(一社) 栃木県建設業協会

| | | |
|-------|------|---------|
| 広報委員会 | 委員長 | 岩原 正樹 氏 |
| | 副委員長 | 吉田 巨 氏 |
| | 副委員長 | 高村 宏之 氏 |

熱い気持ちで明日への道を拓く

興味が現実に

—最初に自己紹介を兼ね、現在担当している業務と、建設業界を目指そうと思ったきっかけを聞かせてください。

■藤田 大学法学部を卒業後、入社して13年になります。現在は現場管理の補助や社内の安全管理を担当しています。建設業を目指したのは幼い頃、バックホーなどの建設機械を見るのが好きで、自分でも「いつかは運転したい」と思うようになったのがきっかけでした。

■榎本 大学卒業後、都内のハウスメーカーに勤めていたのですが、建築現場での現場代理人補佐を経て、今の会社では土木工場の現場代理人として管理業務を行っています。以前から「建

設業は女性には不向きな業種」と思い込んでいたんですが、現場代理人として活躍している女性の存在を知り、自分もやってみたいと思うようになりました。

■金子 高校卒業後、県内の建設会社に就職して4年、その後、現在の会社に勤め、16年になります。主に工事現場の運営、総合管理に携わっています。きっかけはここからの紹介でした。

■櫻井 大学で経営学を学び、新卒で県北の建設会社に入社しましたが、途中で辞めて現在の会社に入り12年になります。



岩原正樹委員長

地図や歴史に残る仕事



一般社団法人 栃木県建設業協会
 会長 渡邊 勇雄

建設業は、良質な社会資本の整備や維持管理を通じ県民生活の向上や安全・安心な社会を築く事業活動を進めております。また、近年では、地震・台風・豪雨・豪雪など頻発する自然災害に対し、緊急対応や復旧活動など、地域の大切なインフラの保全や住民の暮らしを守る「地域の守り手」としての役割が増えています。

そのためにも、これまで建設業が培ってきた技術・技能を将来に亘って継承していくことが大切ですが、技能労働者の高齢化、若年入職者の減少により担い手の確保が急務となっています。本会と致しましては「建設系学科以外の出身で建設業界に従事する男女社員」をテーマとした座談会を通じ、建設業に向かうことになった動機や勤務のかたわらで資格取得を目指した熱い気持ち、周囲の理解などを語り合ってもらい、次世代を担う若者にこうした人生もあると共感を得られたら幸いと期待しております。

明後日(11月18日)は、「十と一・十と八」をあて字にした「土(十一)木(十八)の日」です。あらためて、建設業は地図や歴史に残るランドマークをつくり、災害時にはいち早く駆けつけて応急・復旧作業など大切なミッションを担う、恰好良くやりがいのある仕事であることを、おわかり頂ければ幸いです。

結びに、この度の企画特集に際し、公益財団法人建設業福祉共済団の全面的なご支援を頂くとともに福田富一栃木県知事から頂いたお若い頃のご経験談が、未来を担う世代への力強いエールとなりましたことを深く感謝申し上げます。

希望と魅力ある建設業に



栃木県知事
 福田 富一 氏

建設業は、社会資本の整備を通じて地域経済の持続的な成長を支え、災害時には、「地域の守り手」として現場の最前線に立ち復旧作業に当たるなど、重要な役割を担っています。

これら、地域住民の安全・安心や地域経済に貢献していくという建設業の役割は将来にわたり変わることはありません。

しかしながら、「きつい・汚い・危険」という3Kのイメージがある現在の建設業は、若年層の入職者が少なく、将来の担い手不足が懸念されています。このため県では、「働き方改革」や「生産性向上」のため、週休2日制工事やICT技術を活用した工事などを推進し、職場環境の改善に努めるとともに、児童・生徒や学生など、次の世代を担う若者にPR活動や現場見学会を行い、建設業への理解・関心を深めてもらうための取組も併せて行っています。

私は高校で建築を学び、技術さえあれば大学進学は不要と考えておりました。しかしながら、県庁入庁後、やはり大学で学びたいとの思いに駆られ、働きながら大学に通いました。仕事を終え、大学に通い、当時は一秒一秒を刻む秒針に追われ生活している思いでしたが、職場の理解や協力があり、加えて、私自身が建築への魅力を感じていたからこそ学び続けることができたと思っています。

私が当時感じた思いのように、建設業に魅力を感じた若い世代が、この業界を牽引する時代が迎えられるよう、「高い給与と長い休暇で希望が持てる」新3Kの建設業を目指して引き続き取り組んで参ります。

現在は橋、トンネルなどの社会インフラ修繕・補修工事全般を担当しています。学生時代に建設現場でアルバイトを経験することが多く、体を動かして働き、現場が仕上がっていく楽しさや充実感を味わいました。それで建設業は「自分に向いているのではないかと」思うようになり、建設会社に入社しました。

■菊池 専門学校卒業後、電気工事店や派遣会社で働いていました。今は工事課で土木工事の施工管理業務をOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=職務経験に基づく技能形成)で頑張っています。土木工事は地域のライフラインを支える仕事であり、さまざまな構造物を人が造り上げていく点に興味を持ちました。

■寺内 私は、普通高校卒業後に販売の仕事をしていましたが、現在は主に標識を扱う部署で働き、少しずつ現場にも携わるようになってきました。派遣社員としてCADオペレーターを経験したことがきっかけで建設業に興味を持ち、実際に現場で働く人たちの活躍を見て強く引かれ入社しました。

■岩原 土木工学科で勉強し、大手ゼネコンを経て現在に至るという、業界ではスタンダードな経歴の私に

とって、指定外(建設系以外)から、この業種に入り、頑張っている皆さんには頭が下がる思いがします。

■吉田 私も土木工学科を出て、東京で6年働いた後、家業を継ぎ現在に至っています。若手の人材不足という課題を抱える中、専門の学科を出ても他業種に就職するという若者も多くいるそうです。やはりハードルが高いとか、厳しい業界というイメージを持たれているのでしょうか。しかし皆さんは、志高く目指した道を進み、建設業界で働き続けていることに感謝します。

■高村 私も土木工学科を出ていますが、皆さんとは全く逆で、高校卒業後、実は料理人になりたかったんです。でも家業を継がねばならぬ今の立場にありますが、皆さんの話を聞いていて、私も家業を継いできて良かったと思っています。わが社にも若い社員がおり一生懸命勉強していますが、彼らには社外の学校で学ばせました。なぜなら私たちが取得した当時と比べると試験の難易度が上がっており、真剣に取り組まなければならぬためです。そこを突破してきた皆さんは素晴らしい存在だと思います。



吉田巨副委員長



高村宏之副委員長

やりたいことのために資格に挑む

職場の理解も後押し

「皆さんは仕事柄、働きながら現場に関わる資格を取得、または取得を目指し努力しているわけですが、資格に関するエピソードや、日ごろ思っていることはありますか。」

■**藤田** 専門学校に通っていた先輩らから過去の問題集などをもらい、休み時間や就業後に勉強していました。やはり資格を持っていないと仕事になりませんので。試験前には上司が残業にならないように手伝ってくれたこともありました。仕事を終えた後の勉強は、だいたい2時間くらいです。



井戸産業 藤田昌英氏

■**櫻本** 資格取得を目指したのは、自分のビジョンが明確になったことと、会社のニーズに応えるためでした。先輩方が施工管理の資格を持って、自分で現場の管理をしている姿を見て、私もそうなりたいたいと思いついて1級土木・2級建築施工管理技士の資格を取得しました。いつまでも誰か

の下でやるというわけにはいきません。日々の業務をこなしながら勉強を続けるのは大変ですが、そこに向かってどれだけ頑張れるかが大切であって、自己実現のためには避けて通れない道です。

■**金子** 私は土木施工管理技士を取得した時は参考書などを活用し、舗装技術者に関しては、仕事上りに専門学校の資格取得講座を受講しました。経費は会社が負担してくれたのでありがたかったです。現場の責任者として自立するためには、確かな技術はもちろんですが、しかるべき資格がなければ、誰かのサポート役でしかなく貢献度も低くなってしまいます。ただ資格取得がゴールになってしまっただけは無意味です。工事を無事に完成させ、お客さまや社会に評価され、利益をもたらすことが大事であり、資格を取った後も現場で常に学び知識を得て、任された業務を全うするため創意工夫し続けることが大切です。

■**櫻井** 私は昼休み、現場の車の中でお弁当を食べ終えた後も勉強していました。やりたい仕事をするために必要な資格を取るのには当然です。でも資格があれば、それで済むわけではなく、車の免許に例えるなら、同じ免許を持っていても運転レベルの差があるように建設業界も同様です。確かな技術が伴ってこそそのプロであって、経験を積み、技術の向上に励むことが大切です。そうした意欲ある社員のため、私の会社では資格取得のための社内学習会や、外部講習会への参加などを積極的に勧めています。試験の時期が近づくと、週末は社長や先輩社員が講師となり学習会を開催してくれます。

■**菊池** 私はまだ入社6カ月なのでこれからです。試験は23歳にならないと受けられないので、しばらくは現場で先輩に教わりながら勉強していきます。まずは2級土木施工管理技士

を目指します。私の職場でも技能講習、特別教育が取得できるように協力してくれていますし、先輩から指導やアドバイスももらっています。

■**寺内** 土木系の基礎知識がなかったので、まずは専門用語や法規的な知識を学ぶために、関連書籍を読んだり先輩に聞いたりしていました。建設業にはたくさんの資格があるので一つずつチャレンジ中です。有資格者の先輩が参考書を提供してくれたり、試験問題のポイントなどを教えてくれたりします。



櫻本建設 櫻本菜月氏

意欲に結果がついてくる

「現場でしか学べない事が多い一方、座学や講習会・勉強会の機会も不可欠です。特に建設業界は、そういった側面が大きいのではないですか。」

■**櫻井** 私も業界に入ってから、先輩に付いて一から教わってきました。各現場での仕事のスタイルといったものは、どの企業でも継承されてきた事だと思います。しかし、OFF-JT（オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練）は、業界としての取り組みは、まだ不足しているのかなと思います。学習会などを設けても、費用対効果という面では難しい面もあると思います。うちの会社も思案しているところですが、皆さんの会社での取り組みなどを教えていただけるとありがたいです。

■**岩原** 確かにOFF-JTは進めるべきですが、地方企業の実態から考えると各会社で講師を呼んだり、社内で講師を育成するというような事は、現実的に不可能であって専門学校といった社外の力を借りて、各自の負担は給与や手当などでフォローするのが現実的であって、そうせざるを得ないと思います。その一端を、協会などでもバックアップできる態勢ができればいいと思います。今後、協会としても取り組むべきことの一つではないかと思っています。

「建築科、土木科などを経て入社した同世代の社員とはスタートラインが異なる皆さんは、苦労することも多かったのではないですか。」

■**金子** そんなに苦労したというのではありません。うちの会社にも若手社員がいますが、専門の学科を学んでいても、いなくても、苦労は一緒じゃないかと思っています。私も高校卒業して18歳で業界に入って、入社1年目の11、12月から「現場やってみろ」と言われ、何も分からない状態



松本建設 金子真輔氏

で、まさにOJTで職人さんたちに頭下げながら教えてもらった経験があります。現場の仕事に関してはOJTが全てだと思っています。OFF-JTももちろん大切ですが、それは資格取得に関わる部分でしかないのかなと思います。一つとして同じ工事現場はありませんし、完成形の図面などを基に、最善の施工方法を見いだしていくわけで、応用していく思考力が重要だと後輩には指導しています。

■**藤田** どの仕事でも最初はそうだと思いますが、専門用語が多くて、ついていけなかったのが一番の苦労でした。例えば、昔からの言い方で「ネコ（一輪車）持ってきて」と言われても分からず、どう対応して良いか右往左往してしまいました。日々、勉強で先輩方のご指導や助言をもらいながら施工管理面の基礎知識を身につけることができました。

■**高村** 私も大学卒業後、すぐにできると思っていた現場の仕事で、全く見当違いなことをして主任に怒られた経験もあります。ですから、どこで何を学んできたかということは建設の現場では、それほど関係なくて、本人のやる気次第だと思います。

■**岩原** ただ必然的に、資格を取るには実務経験の年数の差があつて、指定外学科の方ですと、経験を長く持たないと試験を受けることさえできません。今日の話は何いながら、そうした部分の改善も徐々に図られるようになっていくのではないのでしょうか。

熱意と柔軟な「発想力」

「最後に、次代を担う後輩たちへ向け一言お願いします。」

■**藤田** どんな仕事も、やる前から「自分に向いている。向いていない、分野が違う」など考えすぎず、やってみることが大切だと思います。実際に経験して失敗しても、そこに新たな発見があり、そこから何かつながるかもしれません。

■**櫻本** 私には、この業界に本当に良いイメージがなかったんです。「作業着を着た人とは結婚しない」とまで決めていたんですが、そんな私が今は作業着を着ています。今では「人のため、社会のため」という大きな役割を感じられる仕事だと理解しています。建設現場は、多くの方と協力し合って一つの工事を完成させ、実現する喜びを味わえます。私も多くの経験を積んで、建設業の素晴らしさを皆さんに伝えていきたいです。

■**金子** 建設業は地域の活性化を担い、文明を陰で支えてきたと言っても過言ではないでしょう。しかしながら、現在は人手不足に陥っています。このメッセージを受け止めてくれた若者は、ぜひ建設業界へ入ってください。専門的な事を学んでいなくても、現場でたっぷり学べるし、熱意と柔軟な発想力があれば対応できます。

■**櫻井** 建設業には他の業種にはない魅力が間違いなくあります。辛いことも多くありますが、我慢し努力し続ければ必ず目

標にたどり着けるはずで、そこにはその現場でしか味わえない達成感、言葉で表現できない景色があります。一般供用される前のわだちのない道路、何もなかったところに大きな構造物が出来上がった景色など、それが建設業の醍醐味（だいごみ）です。



岡工務店 菊池陸人氏

■**菊池** 現在私は、右も左も分からない状態で悪戦苦闘しています。でも、現場が出来上がっていくのを日々、見届けることができ、そこに自分もひと役買っていることにやりがいを感じています。3K（きつい、汚い、危険）のイメージが強い業種ですが、ずいぶん誤解されている部分も大きく、理解が深まることを望んでいます。また生まれ故郷に役立てる点も誇れるし、同年代や子どもたちにももっと興味を持ってほしいです。初めて立った現場は道路工事でしたが、完成後のイメージが全然なくて、「きれいな道路ってどんな感じなんだろう」と思っていたのですが、出来上がる工程を見て、こういうふうに造られていくんだと感心しました。

■**寺内** 私は専門的な学校を出ていませんが、仕事をしながら経験を重ね、勉強する機会がたくさんあり、徐々に仕事を任せてもらえるようになってきました。図面を見て想像していたものが、現場で形になると想像より迫力があり、初めて携わった現場は今でも覚えています。また、整備された道路の状態を維持したり、被災地の復旧に当たったり、社会貢献できるのもこの業種の特徴です。



岩澤建設 寺内紀美恵氏

■**吉田** 建設業は経験が大事ですが、資格がないと一人前にはなれないし、代理人として成り立たないという矛盾した部分もあると感じました。

そういった中で、皆さんは限られた時間の中で、時間を有効に使い資格取得を目指し、また見事に取得し、第一線で活躍されているわけです。各会社もフォローできることを模索し、皆さんの後に続く若い世代を迎え入れていかなければならないと思います。

■**高村** 元経団連会長の土光敏夫氏の言葉に「会社で働くなら知恵を出せ。知恵のない者は汗を出せ。汗も出ない者は静かに去っていけ」という言葉があります。皆さんは知恵を出し、現場も動かし、工程・品質・安全を見ています。やはり現場をよく知るという面では、汗を出さないと現場を仕上げることができないと思います。ですから余裕がある時は、現場の職人さんと一緒になって汗を出すことも必要です。そうすればさらに現場のことが分かるようになると思います。

■**岩原** 全県下を見渡しても、皆さんのように指定外学科から業界に入った方は少数なようです。しかしそこに自負を持っていただき、多くの若い世代に建設業界に興味を持っていただけるよう、業界の裾野が広がるような努力を続けてほしいと思います。今日のこの日に限らず、皆さんの体験談、達成感といったストーリーを次の世代に伝えていってください。

現場での活躍風景



井戸産業の藤田氏「地域経済を支える建設業として今日も社内安全パトロール中」



櫻本建設の櫻本氏「歩道内に共同溝ボックスを設置するための位置出しを行う」



松本建設の金子氏「県内初となるICT活用工事。五行川遊水地掘削工事」



大岩建設の櫻井氏「橋の支取替工事でジャッキアップの高さを確認」



岡工務店の菊池氏（右）「現場が完成した際の出来形を測量」



岩澤建設の寺内氏「作図した図面と製作中の標識板の実寸を確認」

地元根付く 栃建協 本当は教えたくない女性

会員行きつけの にも人気のグルメスポット



BAKESHOP Cantabile カンタービレ

住 鹿沼市玉田町516-5
TEL 0289-77-5200
営 9:00~19:00
休 月末水曜日・毎週木曜日
HP <http://bakeshop-cantabile.com/>

米粉・小麦・ライ麦で製造した各種パンのほか焼菓子やジャムの製造販売も行っており、全粒粉の食パンや塩パンとバゲットが特におすすめで、すぐに売切れてしまうくらいです。また、パン屋ですがお米・餅の製造販売もしております。

地元の素材を使っています。季節限定パンも!!



高村 健樹
高村 宏之さん



Bisboccia ビスボッチャ

住 鹿沼市下材木町 1325
TEL 0289-62-2249
営 11:30~15:00 (L.O 14:00)
17:30~22:00 (L.O 21:00)
休 月曜日

おいしいピッツアとパスタのイタリア料理店、好評のランチメニューはボリューム満点! また、各種パーティー等も承っております。アットホームな店内で、ゆったりとした時間をお過ごしください。メニューにないものでも作ってくれる、わがままの効くお店です。

優しい味で、お腹いっぱい!!



富士川

住 鹿沼市下田町 2-1405-16
TEL 0289-62-2645
営 11:30~15:00
17:00~20:00
休 木曜日

創業は明治41年、こだわりの石臼挽き自家製粉を使い、常に蕎麦のかおりを大切にしており、十割蕎麦が絶品です。うどんもちもちとした食感ですし、丼物も充実しています。特に天重はおすすめで、私の好物です。

老舗です
天ぷらも
おいしい



小休止 のうか

住 日光市小林 71
TEL 090-7736-3354
営 11:00~14:00
休 木曜日

昨年4月に日光市瀬尾から小林に移転した「小休止 のうか」さん。昔ながらの古民家で雰囲気も良く、地元の湧水を使った手打ち蕎麦は絶品です。お店の一番人気メニューは「小休止スペシャル」で山菜の天ぷらや湯葉刺しがとてもおいしかったです。ぜひお立ち寄りください。(個室あり・駐車場 15台)

観光客にも人気の蕎麦屋さんです



榎 小池建設
小池 洋一さん



酒家⑤商店 marugo-shoten

住 日光市今市 88
TEL 0288-25-7305
営 17:30~23:30
休 月曜日

アットホームな居酒屋さんです

小池工業㈱
小池 秀明さん



日光ぷりん亭

住 日光市上鉢石町 1017
TEL 0288-25-6186
営 10:00~16:00
休 不定休

日光街道沿いの「世界遺産 神橋」の近くにある古民家改築のレトロなお店です。日光霧降高原にある大笹牧場の牛乳を使用し、卵・苺・醤油など栃木県産の原料にこだわって作られています。滑らかな食感と味の濃さ、苺とプリンとの相性もよく、とてもおいしいです。種類も豊富で季節限定プリンなどもあり、いろんな味が楽しめます。JR宇都宮駅構内にも出店し、購入することができます。日光店では、プリン以外にもソフトクリーム・プリンタルト・プリンーナッツなどもあります。お土産や贈り物にもおすすめの逸品です。



baum工房 ゆずの木

住 芳賀郡茂木町茂木 1090-1
TEL 0285-63-5671
営 9:00~17:00
休 第1・第3火曜日

道の駅もてぎ内にできたお店。茂木産コシヒカリ100%、自家製粉した米粉を使用しています。挽きたての米粉と『茂木のたまご』で焼いたbaumクーヘンは、しっとりふわふわ! ほかでは味わえないしっとり感を味わってみてください! 香ばしい香りと木のぬくもりを感じる店内でイトインもできますよ。

ゆず塩らーめんに続く大ヒット商品

㈱阿久津士建 阿久津 亮さん



うまいもん処 美よし

住 芳賀郡芳賀町祖母井 786
TEL 028-677-0344
営 11:00~14:00
17:00~23:00
休 火曜日

美よしではお刺身はもちろん、海なし県の栃木県ではなかなか味わえない、ふくや赤ムツ、クエなど珍しい魚介を直接豊洲より仕入れてます。新鮮な魚介とおいしいお酒が楽しめるお店です。

うまいもん楽しい時間が味わえます



お祭り好きの大将で最高です

鳥料理・串焼き わりき

住 真岡市荒町 3-47-15
TEL 0285-83-4279
営 17:30~00:00
休 日曜日

国産鶏のみ使用☆宮崎の地鶏や伊達鶏、フォアグラのような味わいの白レバーなどの限定メニューや、国産備長炭の炭火焼、新鮮な魚介類など、豊富なメニューがそろっており、地元の人に愛された店です。運が良ければ、来た人しか分からない、隠れメニューに出会えるかも!?

